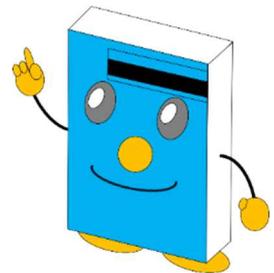


第1章

理論・ツール編

第1章では、「育成を目指す資質・能力」を児童生徒の生活に結び付ける学習活動の設定について提案しています。
また、学習活動の考え方について説明し、活用できるツールを提案します。



「育成を目指す資質・能力」を 児童生徒の生活に結び付ける学習活動

生活に結び付ける学習活動とは？

知的障害のある児童生徒は、学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活場面の中で生かすことが難しいという学習上の特性があります。そのため、実際の生活場面に即しながら、継続的、段階的に指導することが重要です。

また、「知的障害のある児童生徒の教育的対応」として、「生活に結び付いた具体的な活動を学習活動の中心に据え、実際の状況下で指導する」ことが挙げられています。

【参考】特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部) 第4章第2節1, 2
特別支援学校学習指導要領解説 知的障害教科等編(上)(高等部) 第5章第2節1, 2



そこで、「育成を目指す資質・能力」と「児童生徒の生活」を考えながら学習活動を設定していくことが大切であると考え、

「育成を目指す資質・能力」を 児童生徒の生活に結び付ける学習活動の設定

について提案します。

「生活に結び付ける」とは、学習内容を児童生徒の生活に沿うようにする、生かされるようにするということです。生活に役立つ指導事項を選択することや、知識・技能の習得・活用を目指すことではありません。学習活動を通して、芸術に触れて情感豊かな心を育てることやスポーツや音楽等に、生涯にわたって親しむ態度を育成することも大切です。そのため、幅広い体験をすることや感性を働かせること、主体的に取り組むこと、コミュニケーションを楽しむこと、他者と協働すること、自己を表現する喜びを感じることも重要な学習活動です。様々な学習経験を積み重ねることが児童生徒の人間的成長に関わり、現在及び将来の生活を豊かにしていくことにつながっていくと考えています。

児童生徒の生活とキャリア発達段階

キャリア発達段階とは

社会との相互関係を保ちつつ自分らしい生き方を展望し、実現していく過程の中に、生活年齢に応じて変化していく特徴や課題があると考えます。**特徴や課題を含むキャリア発達の変化の段階**をキャリア発達段階とし、知的障害のある児童生徒においては学部(学校)の各段階に応じていると捉えました。

児童生徒の生活を考えるときに、知的障害の状態や特性、学習状況や経験、本人の興味や関心、家庭環境など様々な要素があり、個によって大きく異なります。

しかし、障害の有無や軽重に関わらず、学部(学校)の段階ごとのキャリア発達段階があり、時期的な特徴と課題があります。国立特別支援教育総合研究所が作成した「知的障害のある児童生徒の『キャリアプランニング・マトリックス(試案)』」は、職業生活のみならず、家庭生活や地域生活を踏まえたライフキャリアの視点を取り入れられています。「キャリア発達」及び「キャリア発達段階の解説と発達課題」を参考にすることで、学部(学校)の段階に応じた児童生徒の生活を捉えやすくなります。

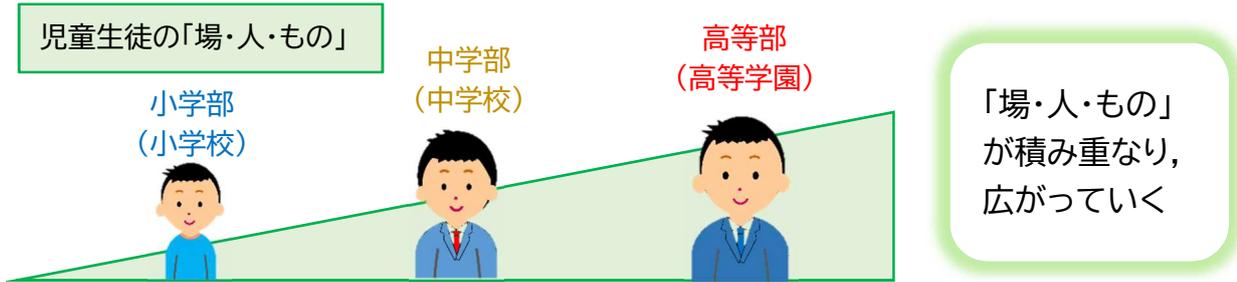
キャリア発達の段階、キャリア発達段階の解説と発達課題

	小学部(小学校)	中学部(中学校)	高等部(高等学園)
キャリア発達の段階	職業及び生活に関わる基礎的な能力獲得の時期	職業及び生活に関わる基礎的な能力を土台に、それらを統合して働くことに応用する能力獲得の時期	職業及び卒業後の家庭生活に必要な能力を実際に働く生活を想定して具体的に適用するための能力獲得の時期
キャリア発達段階の解説と発達課題	未分化であるが、職業及び家庭・地域生活に関する基礎的な能力の習得と意欲を育て、後の柔軟性に必要な統合する能力習得の始まる時期。キャリア発達の視点からは、学校及び生活に関連する諸活動の全てにおいて、遊びから目的が明確な活動へ、扱われる素材が身近なものから地域にある素材へ、援助を受けながらの活動から自主的・自立的活動へと発展しながら全人的発達を遂げる時期。働くことに対する夢や意欲を育てる。	小学部段階で積み上げてきた基礎的な能力を、職場(働くこと)や生活の場において、変化に対応する力として般化できるようにしていく時期。キャリア発達の視点からは、職業生活に必要な自己及び他者理解を深め、実際の職業体験を通じて自らの適性に気づき、やりがいや充実感の体感を通して、職業の意義、価値を知ることや学ぶ。自己の判断による進路選択を経験する時期。	中学部段階で培ってきた能力を土台に、実際に企業等で働くことを前提にした継続的な職業体験を通して、職業関連知識・技術を得るとともに、職業選択、及び移行準備の時期。キャリア発達の視点からは、自らの適性ややりがいなどに基づいた意思決定、働くことの知識・技術の獲得と必要な態度の形成、必要な支援を適切に求め、指示・助言を理解し実行する力、職業生活に必要な習慣形成、経済生活に必要な知識と余暇の活用等を図る時期。

【参考】知的障害のある児童生徒の「キャリアプランニング・マトリックス(試案)」国立特別支援教育総合研究所

児童生徒の生活と「場・人・もの」

障害の状態に関わらず、学部(学校)の段階、すなわちキャリア発達段階が上がるにつれて、児童生徒の「生活の場」「関わる人」「扱うもの」は、積み重なり広がっていきます。(以後、一部を除き、「場・人・もの」と表記します。)**「場・人・もの」の積み重なりや広がりを考慮することで、学部(学校)の段階に応じた児童生徒の生活を捉えやすくなります。**学習活動を設定するときに、「場」「人」は場面設定に、「もの」は教材・教具の工夫に生かすことができます。

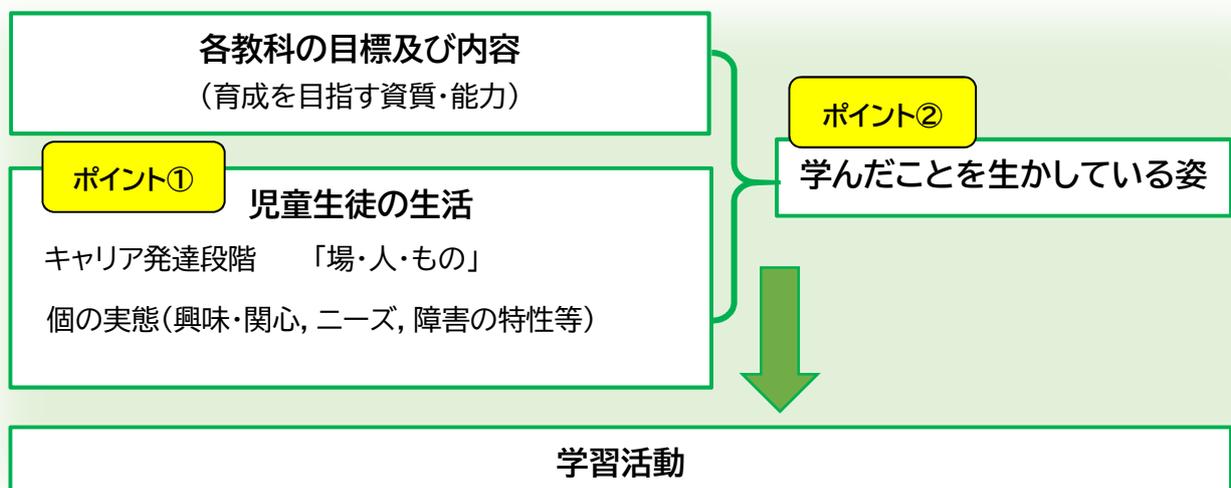


学習活動の設定イメージ

下の図は、「育成を目指す資質・能力」を児童生徒の生活に結び付ける学習活動の設定イメージです。「育成を目指す資質・能力」を児童生徒の生活を結び付ける学習活動を設定するための**ポイント**は、以下の2点です。

- ①児童生徒の生活を捉えること
- ②「学んだことを生かしている姿」を考えること

児童生徒の生活は、個の実態と、障害の有無や軽重に関わらずに共通するキャリア発達段階、「場・人・もの」の積み重ねや広がりから捉えていきます。「学んだことを生かしている姿」は、各教科の目標及び内容(育成を目指す資質・能力)と児童生徒の生活を合わせて考えます。そして、これらを考慮して学習活動を設定します。

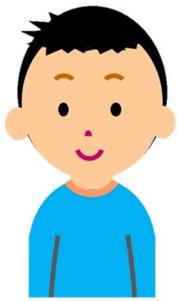


小学部・中学部・高等部の学習活動の設定イメージ

知的障害教育では、発達が緩やかなため、学年が上がっても下学年の段階の各教科の目標及び内容を学習する場合があります。

特別支援学校に在籍する発達が緩やかな名取さんを例に挙げてみましょう。名取さんは、算数や数学の授業における各教科の目標及び内容は、小学部2段階です。しかし、名取さんの学部別の段階に応じたキャリア発達段階があり、「場・人・もの」は積み重なり広がっていきます。

算数・数学の目標及び内容が小学部2段階のままの名取さんが、小学部・中学部・高等部と進学した場合の、学習活動を例示します。



名取さん

特別支援学校在籍

【各教科の目標及び内容】 算数 A 数と計算 小学部2段階

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
内容	ア(ア)㊦ものの集まりや数詞と対応して数字が分かること。	ア(イ)㊦数詞と数字, ものとの関係に着目し, 数の数え方や数の大きさの比べ方, 表し方について考え, それらを学習や生活で興味を持って生かすこと。	(2段階の目標) ウ数量に関心を持ち, 算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味を持って学ぶ態度を養う。

【参考】特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)第4章第4節第3



小学部

各教科の目標及び内容(育成を目指す資質・能力)

算数 A 数と計算 小学部2段階

ポイント①

名取さんの生活

キャリア発達段階を考慮した「場・人・もの」

小学部 場:食堂, 教室 人:友達, 教師 もの:牛乳, ストロー

名取さんの実態

- ・当番活動に意欲的である。
- ・3までの数を数えることができる。

ポイント②

学んだことを生かしている姿

- ・食堂で, 学級の友達と教師の人数分の牛乳とストローを数えて教室まで運ぶ。
- ・教室で, 人数分の牛乳とストローを正確に配る。

給食当番として, 牛乳とストローを人数分配ることができた。

学習活動

教科別の指導「算数」

- ・空の牛乳パック5個を, 数唱しながらかごに入れる。
- ・5までの数を数唱しながら, ストローを仕切りのあるケースに入れる。



小学部の名取さん

中学部

各教科の目標及び内容(育成を目指す資質・能力)

算数 A 数と計算 小学部2段階

ポイント①

名取さんの生活

キャリア発達段階を考慮した「場・人・もの」

中学部 場:家庭の台所 人:家族 もの:調理器具, 食器

名取さんの実態

- ・家族思い。
- ・家庭でできることを増やし, 家族の手伝いをしたいと思っている。

ポイント②

学んだことを生かしている姿

- ・家庭で, 食事の準備を手伝う。
- ・調理器具を用意したり, 家族の食器を並べたりする。

家庭で, 食事の準備の手伝いができた。

学習活動

各教科等を合わせた指導「生活単元学習, (職業・家庭, 数学)」

- ・調理室で, グループ数に応じて必要な調理器具の個数を, 作業表を確認しながら準備する。
- ・グループの人数分の食器を準備する。



中学部の名取さん

高等部

各教科の目標及び内容(育成を目指す資質・能力)

算数 A 数と計算 小学部2段階

ポイント①

名取さんの生活

キャリア発達段階を考慮した「場・人・もの」

高等部 場:職場実習先 人:職場の人 もの:商品

名取さんの実態

- ・今度, 職場実習先に行く。指示されたとおりに, 仕事ができるか不安を感じている。

ポイント②

学んだことを生かしている姿

- ・職場実習先で, 職場の人と協力して, 指示されたとおりの個数の商品を袋詰めする仕事を行う。

職場実習先で, 商品の個数を指示されたとおりに袋詰めすることができた。

学習活動

各教科等を合わせた指導「作業学習・食品製造班(数学, 家庭)」

- ・作業を行う中で, コーヒーシュガーを10本まで数え, 向きをそろえて袋詰めをする。

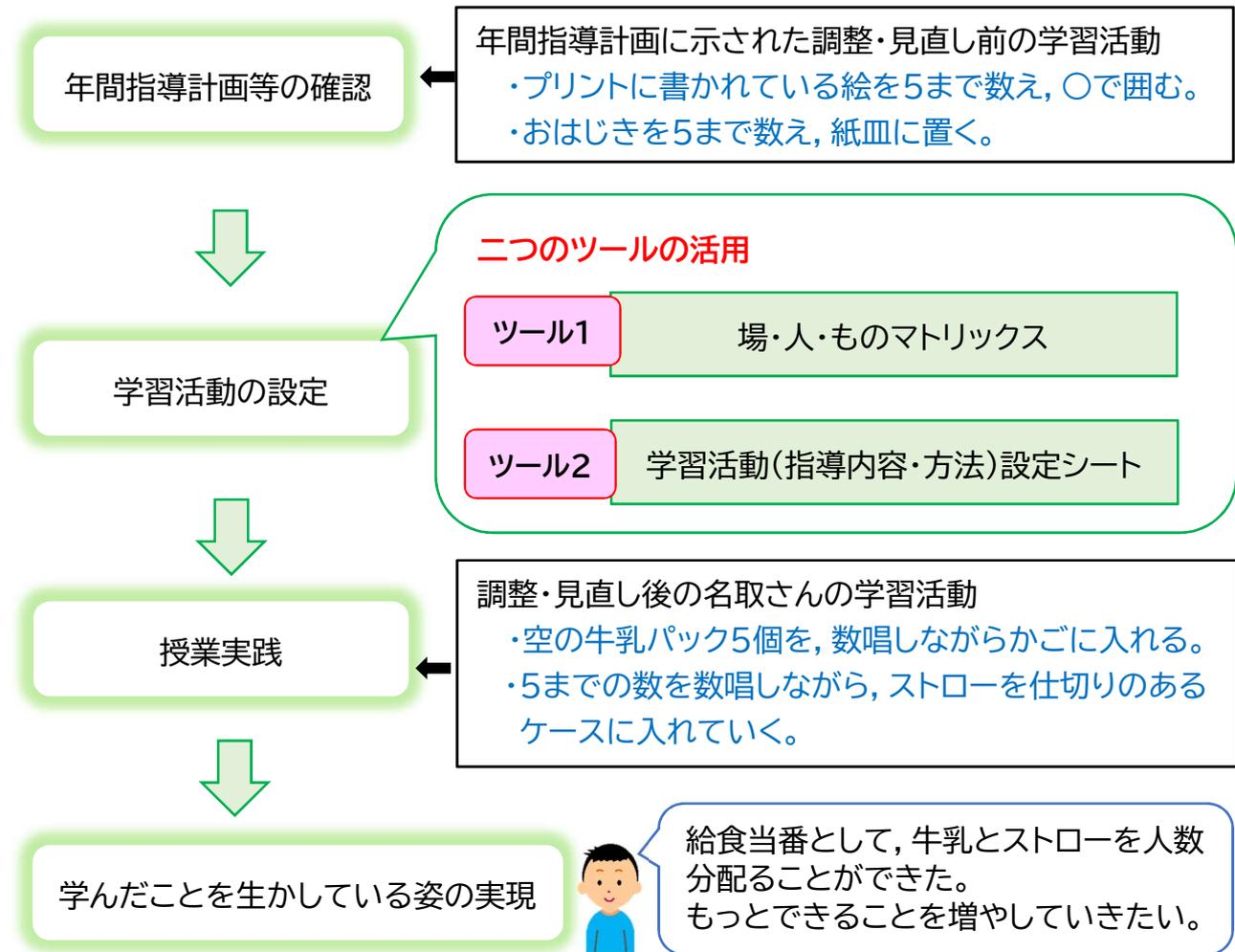


高等部の名取さん

ツールを活用した学習活動の設定

年間指導計画や個別の指導計画等を基に、調整・見直しを図って学習活動を設定する際に活用することができるツールを二つ作成しました。

「場・人・ものマトリックス」と「学習活動(指導内容・方法)設定シート」です。



ツールの活用を通してできること

- 児童生徒の生活を捉えること (**ポイント①** と対応)
- 「学んだことを生かしている姿」を考えること (**ポイント②** と対応)
- 育成を目指す資質・能力(各教科の目標及び内容)を明確にすること

「育成を目指す資質・能力」を生活に結び付ける学習活動を設定することができます。

学習活動を設定する際に活用するツール

「場・人・ものマトリックス」について

知的障害のある児童生徒の生活の変化において、共通して積み重なり広がっていく「場・人・もの」とキャリア発達段階を組み合わせ示したものが、「場・人・ものマトリックス」です。「場・人・ものマトリックス」を活用することで、キャリア発達段階と「場・人・もの」の積み重ねや広がりを考慮して、生活を捉えた学習活動につなげることができます。

「学んだことを生かしている姿」を考えるとときや、場面設定、教材・教具を工夫するときに参考にすることができます。

児童生徒の生活を捉え、学部(学校)の段階に応じた学習活動を設定することが大切です。

ツール1

「場・人・ものマトリックス」

生活の



関わる



(P1-9, 10, 11 参照)

図解 場・人・ものマトリックス **生活の 場**

「場・人・ものマトリックス」は、知的障害のある児童生徒の生活において、共通する「場・人・もの」の積み重ねや広がりをキャリア発達段階と組み合わせています。具体的な事例は、学部(キャリア発達段階)を考慮して紹介しています。児童生徒の発達、学部や地域の実情で取り入れられないもの、他学部(学校の)ものを取り入れる場合もあります。キャリア発達段階と「場・人・もの」を考慮して、児童生徒の生活を捉え、学部(学校)に応じた学習活動を設定しましょう。

学部	小学部(小学校)	中学部(中学校)	高等部(高等学校)
職業及び生活に関わる基礎的な能力獲得の段階	職業及び生活に関わる基礎的な能力獲得の段階	職業及び生活に関わる基礎的な能力獲得の段階	職業及び生活に関わる基礎的な能力獲得の段階
作業や課題に関わるもの	作業や課題に関わるもの	職業実習、就労に関わるもの	職業実習、就労に関わるもの
手伝いや役割、仕事について知るために関わるもの	手伝いや役割、仕事について知るために関わるもの	手伝いや役割、仕事について知るために関わるもの	手伝いや役割、仕事について知るために関わるもの
買い物に関わるもの	買い物に関わるもの	消費生活に関わるもの	消費生活に関わるもの
遊びに関わるもの	趣味・関心や適性に応じて関わるもの	趣味・関心や適性に応じて関わるもの	趣味・関心や適性に応じて関わるもの
身近な地域に関わるもの	地域参加や安全に関わるもの	よりよい地域生活、福祉に関わるもの	よりよい地域生活、福祉に関わるもの
家庭生活を営む上で関わるもの	家庭生活を営む上で関わるもの	家庭生活を営む上で関わるもの	家庭生活を営む上で関わるもの

【参考】知的障害のある児童生徒のキャリアプランニングマトリックス(試案) | 国立特別支援教育総合研究所

図解 場・人・ものマトリックス **関わる 人**

「場・人・ものマトリックス」は、知的障害のある児童生徒の生活において、共通する「場・人・もの」の積み重ねや広がりをキャリア発達段階と組み合わせています。具体的な事例は、学部(キャリア発達段階)を考慮して紹介しています。児童生徒の発達、学部や地域の実情で取り入れられないもの、他学部(学校の)ものを取り入れる場合もあります。キャリア発達段階と「場・人・もの」を考慮して、児童生徒の生活を捉え、学部(学校)に応じた学習活動を設定しましょう。

学部	小学部(小学校)	中学部(中学校)	高等部(高等学校)
職業及び生活に関わる基礎的な能力獲得の段階	職業及び生活に関わる基礎的な能力獲得の段階	職業及び生活に関わる基礎的な能力獲得の段階	職業及び生活に関わる基礎的な能力獲得の段階
作業や課題に関わるもの	作業や課題に関わるもの	職業実習、就労に関わるもの	職業実習、就労に関わるもの
手伝いや役割、仕事について知るために関わるもの	手伝いや役割、仕事について知るために関わるもの	手伝いや役割、仕事について知るために関わるもの	手伝いや役割、仕事について知るために関わるもの
買い物に関わるもの	消費生活に関わるもの	消費生活に関わるもの	消費生活に関わるもの
遊びに関わるもの	趣味・関心や適性に応じて関わるもの	趣味・関心や適性に応じて関わるもの	趣味・関心や適性に応じて関わるもの
身近な地域に関わるもの	地域参加や安全に関わるもの	よりよい地域生活、福祉に関わるもの	よりよい地域生活、福祉に関わるもの
家庭生活を営む上で関わるもの	家庭生活を営む上で関わるもの	家庭生活を営む上で関わるもの	家庭生活を営む上で関わるもの

【参考】知的障害のある児童生徒のキャリアプランニングマトリックス(試案) | 国立特別支援教育総合研究所

扱う



図解 場・人・ものマトリックス **扱う もの**

「場・人・ものマトリックス」は、知的障害のある児童生徒の生活において、共通する「場・人・もの」の積み重ねや広がりをキャリア発達段階と組み合わせています。具体的な事例は、学部(キャリア発達段階)を考慮して紹介しています。児童生徒の発達、学部や地域の実情で取り入れられないもの、他学部(学校の)ものを取り入れる場合もあります。キャリア発達段階と「場・人・もの」を考慮して、児童生徒の生活を捉え、学部(学校)に応じた学習活動を設定しましょう。

学部	小学部(小学校)	中学部(中学校)	高等部(高等学校)
職業及び生活に関わる基礎的な能力獲得の段階	職業及び生活に関わる基礎的な能力獲得の段階	職業及び生活に関わる基礎的な能力獲得の段階	職業及び生活に関わる基礎的な能力獲得の段階
作業や課題に関わるもの	作業や課題に関わるもの	職業実習、就労に関わるもの	職業実習、就労に関わるもの
手伝いや役割、仕事について知るために関わるもの	手伝いや役割、仕事について知るために関わるもの	手伝いや役割、仕事について知るために関わるもの	手伝いや役割、仕事について知るために関わるもの
買い物に関わるもの	消費生活に関わるもの	消費生活に関わるもの	消費生活に関わるもの
遊びに関わるもの	趣味・関心や適性に応じて関わるもの	趣味・関心や適性に応じて関わるもの	趣味・関心や適性に応じて関わるもの
身近な地域に関わるもの	地域参加や安全に関わるもの	よりよい地域生活、福祉に関わるもの	よりよい地域生活、福祉に関わるもの
家庭生活を営む上で関わるもの	家庭生活を営む上で関わるもの	家庭生活を営む上で関わるもの	家庭生活を営む上で関わるもの

【参考】知的障害のある児童生徒のキャリアプランニングマトリックス(試案) | 国立特別支援教育総合研究所

学習活動を設定するときに、「場」・「人」は場面設定に、「もの」は教材・教具の工夫に生かすことができます。

指導内容は、各教科の目標及び内容を参照して、児童生徒の発達段階に応じたものを選択します。

「場・人・ものマトリックス」の見方

「場・人・ものマトリックス」の見方を説明します。

生活場面のカテゴリー
キャリア発達段階を基に、「職業」「経済」「余暇」「地域」「家庭」の五つに分類しています。

見出し
生活場面のカテゴリーごとに、時期的な特徴などを見出しにしています。

県総合教育センター 特別支援教育研究グループ

「場・人・もの」が積み重なり、広がっていく

知的障害のある児童生徒のための

場・人・ものマトリックス

生活の場

「場・人・もの」マトリックスは、知的障害のある児童生徒の生活において、共通する「場・人・もの」を積み重ねて示しています。具体的な事物は、学部(キャリア発達段階)を考慮して例示しています。児童生徒の実態、学校や地域の状況で取り入れられないものや、他学部(学校)の事物を取り入れる場合もあります。キャリア発達段階と「場・人・もの」を学習活動に結びつけてみましょう。

学部	小学部(小学校)	中学部(中学校)	高等部(高等学園)
キャリア発達段階	職業及び生活に関わる基礎的な能力獲得の時期	職業及び生活に関わる基礎的な能力を土台として働くことに応用する能力獲得の時期	職業及び卒業後の家庭生活に必要な能力を実際に働く生活を想定して具体的に適用するための能力獲得の時期
学習活動の設定では場面設定の工夫へ	職業 手伝いや役割、仕事について知るために関わる場 学級、家庭、学校、近くの店や道路 など	職業 作業や進路に関わる場 作業室、職場見学先、生産の現場や販売の場所 など	職業 職場実習、就労に関わる場 公共職業安定所、実習先や就労先、就労支援施設、納入先、面談や打合せの場所、資格習得の検定場所 など
	経済 買い物に関わる場 近所の店、飲食店 など	経済 消費生活に関わる場 販売会場、目的に応じた店 など	経済 経済生活に関わる場 金融機関、消費生活センター、インターネット店舗、実習先の近くの店舗 など
	余暇 遊びに関わる場 自宅、公園、習い事の場、放課後等デイサービス、公共施設(児童館、図書館、体育館)、友達の家 など	余暇 興味・関心や適性に応じて関わる場 趣味を楽しむ場所(コンサート会場、スポーツ観戦場、試合会場、イベント会場)、部活動の活動場所 など	余暇 余暇を有効に過ごすために関わる場 地域のサークル活動場所、余暇施設、観光先、旅行先 など
	地域 身近な地域で関わる場 居住地の近隣(家の周り、自然、通学路、駅、病院、お祭り会場)、友達の家 など	地域 地域参加や安全で関わる場 公共施設、地域の避難場所、警察署、ボランティア先 など	地域 よりよい地域生活、福祉に関わる場 居住地域の施設(集会所、投票所、福祉関係機関、相談支援事業所、高齢者施設)、文化遺産 など
	家庭 家庭生活を営む上で関わる場 家の内外(台所、トイレ) など	家庭 家庭生活を営む上で関わる場 浴室、寝室、玄関、庭、ベランダ、共有スペース、駐車場、親戚の家 など	

【参考】知的障害のある児童生徒の「キャリアプランニングマトリックス(試案)」国立特別支援教育総合研究所

「場・人・もの」の具体的な事物
具体的な事物は、学部(キャリア発達段階)を考慮して例示しています。児童生徒の実態、学校や地域の状況で取り入れられないものや、他学部(学校)の事物を取り入れる場合もあります。キャリア発達段階を念頭に置きながら調整することが大切です。

特別支援学校学習指導要領解説各教科等編(小・中・高)の各教科の目標及び内容は、生活年齢を基盤として段階が構成されています。こうした段階も踏まえて、見出しや具体的な事物の配置を考えました。

「場・人・ものマトリックス」は、「場・人・もの」の積み重ねや広がりの一例です。各学校で、地域や学校の実情に合わせてアレンジし、ご活用ください。



生活の場

「場・人・もの」
が積み重なり、
広がっていく



知的障害のある児童生徒のための
場・人・ものマトリックス

「場・人・ものマトリックス」は、知的障害のある児童生徒の生活において、共通する「場・人・もの」の積み重ねや広がりをキャリア発達段階と組み合わせ示しています。具体的な事物は、学部(キャリア発達段階)を考慮して例示しています。児童生徒の実態、学校や地域の実情で取り入れられないもの、他学部(学校)のものを取り入れる場合もあります。キャリア発達段階と「場・人・もの」を考慮して、児童生徒の生活を捉え、学部(学校)に応じた学習活動を設定しましょう。

学部	小学部(小学校)	中学部(中学校)	高等部(高等学園)	
キャリア発達段階	職業及び生活に関わる基礎的な能力獲得の時期	職業及び生活に関わる基礎的な能力を土台に、それらを統合して働くことに応用する能力獲得の時期	職業及び卒業後の家庭生活に必要な能力を実際に働く生活を想定して具体的に適用するための能力獲得の時期	
学習活動の設定では場面設定の工夫へ	職業	作業や進路に関わる場	職場実習、就労に関わる場	
		手伝いや役割、仕事について知るために関わる場		
		学級、家庭、学校、近くの店や道路 など	作業室、職場見学先、生産の現場や販売の場所 など	公共職業安定所、実習先や就労先、就労支援施設、納入先、面談や打合せの場所、資格習得の検定場所 など
	経済	消費生活に関わる場	経済生活に関わる場	
		買い物に関わる場		
	余暇	消費生活に関わる場		
		遊びに関わる場	興味・関心や適性に応じて関わる場	余暇を有効に過ごすために関わる場
	地域	遊びに関わる場		
		身近な地域で関わる場	地域参加や安全で関わる場	よりよい地域生活、福祉に関わる場
	家庭	身近な地域で関わる場		
		家庭生活を営む上で関わる場		
		家の内外(台所、トイレ、洗面所、居間、浴室、寝室、玄関、庭、バルコ、共有スペース、駐車場)、親戚の家 など		

【参考】知的障害のある児童生徒の「キャリアプランニングマトリックス(試案)」国立特別支援教育総合研究所



「場・人・もの」
が積み重ねたり、
広がっていく



知的障害のある
児童生徒のための

場・人・ものマトリックス

「場・人・ものマトリックス」は、知的障害のある児童生徒の生活において、共通する「場・人・もの」の積み重ねや広がりをキャリア発達段階と組み合わせ示しています。具体的な事物は、学部(キャリア発達段階)を考慮して例示しています。児童生徒の実態、学校や地域の実情で取り入れられないもの、他学部(学校)のものを取り入れる場合もあります。キャリア発達段階と「場・人・もの」を考慮して、児童生徒の生活を捉え、学部(学校)に応じた学習活動を設定しましょう。

学部	小学部(小学校)	中学部(中学校)	高等部(高等学園)
キャリア発達段階	職業及び生活に関わる基礎的な能力獲得の時期	職業及び生活に関わる基礎的な能力を土台に、それらを統合して働くことに応用する能力獲得の時期	職業及び卒業後の家庭生活に必要な能力を実際に働く生活を想定して具体的に適用するための能力獲得の時期
学習活動の設定では場面設定の工夫へ	職業	作業や進路に関わる人	職場実習, 就労に関わる人
		手伝いや役割, 仕事について知るために関わる人 家族, 友達, 学校内の教師, 働く人 など	作業学習の担当教師や仲間, 職場見学先の担当者, 働いている卒業生, 販売相手, 客, 生産者 など 職場実習先の担当者, 一緒に働く人, 納入先の人, 就労に関する支援者, 進路担当者 など
	経済	消費生活に関わる人	経済生活に関わる人
		買い物に関わる人 店員 など	販売会場担当者, 客 など 金融機関の人 など
	余暇	興味・関心や適性に応じて関わる人	余暇を有効に過ごすために関わる人
		遊びに関わる人 家族, 友達, 教師, 習い事や放課後等デイサービスで出会う人(友達, 指導者, 職員) など	共通の趣味を持つ友達, 趣味で訪れる場にいる人, 部活動の人, SNSを介して関わる人 など 余暇で訪れる場にいる人, 一緒に活動する人(支援者), 一緒に楽しむ仲間 など
地域	地域参加や安全で関わる人	よりよい地域生活, 福祉に関わる人	
	身近な地域で関わる人 居住地の近隣の人(隣近所, 子ども会), 医師, 日常生活に関する支援者, 交流先の友達 など	公共施設の職員, 学校の近隣の人, 地域の活動と一緒に活動する人(町内会), ボランティアで関わる人 など 居住地域の異年齢の人(役場職員, 相談支援員) など	
家庭	家庭生活を営む上で関わる人 家族, 養育者, 親戚 など		

【参考】知的障害のある児童生徒の「キャリアプランニングマトリックス(試案)」国立特別支援教育総合研究所

「場・人・もの」
が積み重なり、
広がっていく小学部
(小学校)中学部
(中学校)高等部
(高等学園)知的障害のある
児童生徒のための

場・人・ものマトリックス

扱うもの

「場・人・ものマトリックス」は、知的障害のある児童生徒の生活において、共通する「場・人・もの」の積み重ねや広がりをキャリア発達段階と組み合わせて示しています。具体的な事物は、学部(キャリア発達段階)を考慮して例示しています。児童生徒の実態、学校や地域の実情で取り入れられないもの、他学部(学校)のものを取り入れる場合もあります。キャリア発達段階と「場・人・もの」を考慮して、児童生徒の生活を捉え、学部(学校)に応じた学習活動を設定しましょう。

学部	小学部(小学校)	中学部(中学校)	高等部(高等学園)
キャリア発達段階	職業及び生活に関わる基礎的な能力獲得の時期	職業及び生活に関わる基礎的な能力を土台に、それらを統合して働くことに応用する能力獲得の時期	職業及び卒業後の家庭生活に必要な能力を実際に働く生活を想定して具体的に適用するための能力獲得の時期
学習活動の設定では教材・教具の工夫へ	職業	作業や進路に関わるもの	職場実習、就労に関わるもの
		手伝いや役割、仕事について知るために関わるもの	
		手伝いや当番で使う物(掃除用具、配膳物、配布物)など	指示書、作業日誌、作業服、納品書、請求書、作業製品、スケジュール帳、進路に関するパンフレット など
	経済	消費生活に関わるもの	経済生活に関わるもの
		買い物に関わるもの	
	お金、レシート、財布 など	小遣い帳、食品表示、プリペイドカード、計算機、広告、エコバッグ など	通帳、クレジットカード など
	余暇	興味・関心や適性に応じて関わるもの	余暇を有効に過ごすために関わるもの
		遊びに関わるもの	
	玩具、ボール、絵本、図鑑、ぬいぐるみ、習い事で使う物(スポーツ用品、楽器) など	趣味や部活動で使う物、SNS、雑誌 など	レシピ、旅行のパンフレット、様々なサイトやアプリケーションソフトウェア、小説、伝統工芸品、美術・芸術作品 など
	地域	地域参加や安全に関わるもの	よりよい地域生活、福祉に関わるもの
		身近な地域で関わるもの	
	自動車、信号、横断歩道、切符、回覧板、掲示板、ポスター、病院にある物、友達の家物 など	公共施設にある物、ICカード、公共物、地域の物(祭りの道具、防災用品、ハザードマップ) など	障害者手帳、時刻表や経路探索の案内掲示やアプリケーションソフトウェア、ヘルプカード など
家庭	家庭生活を営む上で関わるもの		
	自分や家族の持ち物(お皿、箸、歯ブラシ、上着、帽子、手袋、運動着) など	頻繁に目にする物や使用する物(時計、スマートフォン、調理器具、電子レンジ、食材)場面に応じた服 など	運転免許証、説明書、契約書、証明書、受検(験)票、洗濯表示、TPOに合わせた服、健康管理に関するもの など

【参考】知的障害のある児童生徒の「キャリアプランニングマトリックス(試案)」国立特別支援教育総合研究所

「学習活動(指導内容・方法)設定シート」について

二つのポイント(児童生徒の生活を捉えることと、児童生徒が「学んだことを生かしている姿」を考えること)を踏まえて学習活動を設定するときに活用できるツールが、「学習活動(指導内容・方法)設定シート」です。年間指導計画や個別の指導計画等を基に、調整・見直しをしながら学習活動を設定することができます。学習活動を設定した後は、単元計画等の指導計画の立案につなげることができます。

年間指導計画, 個別の指導計画等の確認

ツール2 「学習活動(指導内容・方法)設定シート」

シートの上部に個別に設定した学習活動, シートの下部に学級や学年など集団で設定した学習活動を記入します。

指導体制を検討しながら, 児童生徒一人一人が十分に学べる学習活動を設定していきます。初めから個別の学習をすることが決まっている場合には, シートの上部のみを使用することも可能です。

習熟度や発達段階に応じたグループごとに, 児童生徒の個別の学習活動を設定する欄を活用することもできます。

単元の学習活動だけではなく, 本時の学習活動を考えるときにも活用できます。

宮城県総合教育センター 特別支援教育研究グループ

学習活動(指導内容・方法)設定シート		【指導の形態】	【単元(題材)名】	【時数】
【指導の期間】		【学級・学年・学期】		
氏名	【各教科の目標及び内容】 【育成を目指す資質・能力】	【学んだことを生かしている姿】	【場・人・もの】	【学習活動】 (指導内容・方法)
	グループ	【各教科の目標及び内容】 【育成を目指す資質・能力】	【学んだことを生かしている姿】	【場・人・もの】
個別に設定				
【主な学習活動】(指導内容・方法)		【指導体制】	【時数】	
集団で設定				

※個別の学習活動を一人一人が十分に学べる学習活動と考えます。集団として実施可能なものを検討し、指導体制(一度限りのグループ指導, 巡回指導)や時数を設定します。

シートを活用した学習活動の設定

第2章 設定編

シートの活用例や記入例

第3章 活用例編



この後, 単元計画等の指導計画を立案します。「みやぎ授業づくりガイド」第2章2-47「単元構想シート」や学校ごとに使用している略案等の様式を用いることができます。



学習活動(指導内容・方法)設定シート

【指導の形態】		【単元(題材)名】		【時数】	
【指導の期間】		【学部・学年・学級】			
個別に設定	氏名	【各教科の目標及び内容】 (育成を目指す資質・能力)	【学んだことを生かしている姿】	【場・人・もの】	【学習活動】 (指導内容・方法)
	グループでも可	学習指導要領を基に、教科や内容のまとまり、段階などを記入します。	年間指導計画に示された各教科の目標及び内容や、「場・人・もの」の積み重ねや広がりがから、児童生徒が学んだことを生かしている姿を記入します。	「場・人・ものマトリックス」を参考に、「場・人・もの」を具体的に考えます。全てを記入する必要は、ありません。	「場・人」を場面設定、「もの」を教材・教具と考えます。資質・能力を育成し、「学んだことを生かしている姿」につながる学習活動を記入します。

※個別の学習活動を基に、一人一人が十分に学べる学習活動を考えます。集団として実現可能なものか検討し、指導体制(一斉指導,グループ指導,個別指導)や時数を設定します。

集団で設定	【主な学習活動】(指導内容・方法)	【指導体制】	【時数】